

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

<b>事業所名</b>	グループホームかえて
日付	平成16年12月13日
<b>評価機関名</b>	社会福祉法人 岡山県社会福祉協議会
評価調査員	病院での痴呆性高齢者の看護・介護業務歴 36年 病院での相談援助業務歴 30年、家族介護歴 13年
<a href="#">自主評価結果を見る（事業所の自主評価結果にリンクします）</a>	
<a href="#">評価項目の内容を見る（岡山県の定めた評価項目へリンクします）</a>	
<b>事業者のコメントを見る</b> （評価結果に対する事業者の改善状況についてコメントがあります！）	

**外部評価の結果**

<b>概評</b>
全体を通して（特に良いと思われる点など）
<ul style="list-style-type: none"> <li>交通の良い住宅地の中に普通の住宅風に建てられていて、玄関廻りに開放的な雰囲気があり、訪れやすくなっています。</li> <li>玄関入口、エレベーターの傍ら（1階 2階共）にチェストが設置してあり、腰かけて一呼吸置くことができるようにされており、入居者が常時使用しています。建物内部は廊下、ホール、量コーナーなど、広々としており、入居者の動きが一目で把握しやすいように機能的につくられていて、明るく開放的です。特に、全居室に洋式トイレが設置してあり、おむつはすし介護に積極的な取り組みがなされています。</li> <li>職員全員が痴呆高齢者の介護に意欲的に取り組んでいて、常に「笑顔の対応」を心掛けており、ホーム全体にあたたかい空気が感じられます。</li> <li>職員が入居者を個別に把握できていて、それぞれの力を引き出す努力、関わりを継続しておられ、職員間で情報の共有をして介護のレベル、質を高めるような取り組みがなされています。</li> <li>理念が短い言葉でわかりやすく、諸所（玄関、1・2階入口、管理室、各職員の名札）に表示しており、職員全員に良く浸透しています。</li> <li>薬剤管理に院外薬局の協力を得ており、定時・臨時内服薬の分包や薬剤管理が確実になされています。そのことにより業務短縮ができていて、誤薬などの事故防止にもなっています。また、薬剤の副作用などの情報や問合せにもすぐに対応可能になっています。</li> <li>グループ全体施設の重要な施設としてグループホームが位置付けられており、グループホーム本来の目的に合ったケアを提供することを目標に取り組みがなされています。入居者の表情が明るく、穏やかで、笑顔が多く落ち着いておられます。</li> <li>グループ全体施設の連携が十分になされていて、緊急時の受診や入院の対応もできています。事故対策・感染対策なども委員会があり、グループホームの管理者は必ず出席しています。また、ホーム独自の対応マニュアルを作成して、日常的に取り組み、万全の対策がなされています。</li> </ul>
特に改善の余地があると思われる点
<p>本来のグループホームとしての質を上げるために、とても頑張っておられますが、次の点が感じられました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食卓風景が少し地味に感じられます。皿数を増やしたり食器・お皿の色、センタークロスや季節の花を置くなど、色彩的な工夫があれば、華やかな、美味しそうな食卓風景になるとおもわれます。</li> </ul>

**運営理念**

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	<p>“個々の能力を生かしたあたたかいケアをしよう！”という端的な分かりやすい理念にそって、入居者を中心に、入居者が主体となって時間が流れるように全職員が常に意識して行動しており、一人ひとりを大切に、一人ひとりが出来る事を見極めて、それぞれの力を引き出す温かいケアの提供を目指しています。“出来る事出来ない事”は判定用のシートを用いて3ヶ月ごとに客観的なチェックがなされています。定期的な話し合いのときには必ず“理念”の再確認を行うようにされています。</p>		

**生活空間づくり**

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間づくり		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の環境づくり		
4	建物の外周や空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	<p>押しつけるのではなく、入居者のペースで生活ができるようにと、職員が常に意識化して関わるようにしておられます。玄関は夜間以外は開鍵してあり、1・2階とも入口は常に開放されており、無断で出て行く方にはリアルタイムに一緒に歩いておられます。また、新しく入居された方の強い帰宅願望に対しては、可能な限り、何度でも、一緒に歩いておられ、ほとんどの方がおよそ一ヶ月位で落ち着かれるようです。職員の方も常に健全な精神状態で関わりを持つために、お互いに声を掛け合うなどの取り組みをされておられます。</p>		

**ケアサービス（つづき）**

番号	項目	できている	要改善
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	<p>一人ひとりのこれまでの生活歴や、持てる力については、入居されてから、少しずつコミュニケーションを重ねる中で得られた情報や、家族の方から聞いた情報などを申し送り、また、記録などで全職員が共通に認識するようにしています。その中から、例えば、草取り、花の世話、料理、アイロンかけ、習字、編物など、さりげなく日々の生活の中で生かす工夫ができています。</p> <p>各人の部屋には、ノックをして声かけをして入室されています。</p> <p>ハード面では、各居室は中から鍵をかけることができ、錠錠して眠る人もあり、各居室のトイレにはカーテンがとりつけてあります。</p>		

**運営体制**

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人ができることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
	<p>きることの見極めを詳細に行い、ケアに生かすように、職員が常に細心の注意を払って行動しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研修に積極的に取り組んでいます。研修後は報告会、報告書によってスタッフ全員に伝達出来るようにしています。関連施設の勉強会に参加することに加えて、2カ月に1回は、自施設独自の自主的な勉強会を持ち、記録に残しています（心肺蘇生、糖尿病、うつ病、高血圧、ターミナルケア、身体拘束等など）。</li> <li>関連施設の事故対策委員会、感染対策委員会などに全職員が参加できていて、自施設独自のマニュアルもわかりやすい形式で整備されています（転倒予防、行方不明、窒息・誤えん、外出時、インフルエンザ、レジオネラ症、疥癬などのマニュアル）。</li> <li>ヒヤリハット事例報告書は、事例ごとに問題点を環境・装置・作業方法・自分自身の四点から記述できる様式にしてあり、分類もされて、事故予防に活用しています。</li> <li>痴呆対応型共同介護サービス計画は、3ヶ月ごとにケースカンファレンスを行い、見直し更新を行っています。</li> <li>行事については書式を用いて、企画の段階から詳細に念入りに準備を行い、実施後の結果までを施設代表者の押印と共に記録に残して 次回の計画に反映しています。</li> </ul>		